


☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



アユ

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120
FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387



満員の観客の想いがひとつに

『原発ゼロの会』発足集会 開かれる

2011年10月15日(土) エル大阪南館5階ホールで、待ちに待った『原発ゼロの会・大阪』の発足集会が開かれました。関係者の心配をよそに、会場は300人を超える参加者で埋まりました。開会は、おなじみ「かわさきゆたか」さんの「戦争は

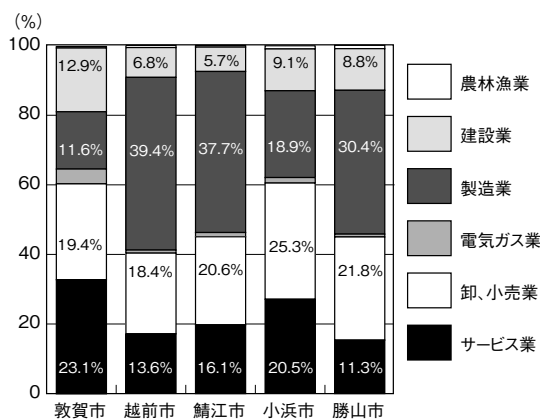
いやや、原発はもういらん!」の演奏で明るくはじまりました。福島からの連帯メッセージビデオ、呼びかけ人12人を代表し核戦争防止国際医師会議大阪支部長小田徹也さんと呼びかけ8団体からおおさか市民ネットワーク代表があいさつしました。メイン講演は、日本科学者会議敦賀市在住の山本雅彦氏の「福島原発と福井の原発」。多彩な映像を駆使した講演は時間の過ぎるのも忘れるほど、特に、現地の人でなければわからない原発誘致が如何に地域の環境・産業・政治・人の心を破壊しているかという件には、ため息交じりの共感が拡がりました。

講演の後は『原発ゼロ』運動の今後の取り組み提案、加盟団体からのユニークな活動報告、「今こそ一人ひとりが声をあげましょう!」のアピール採択、閉会挨拶は会代表の金谷邦夫大阪から公害をなくす会会長。金谷氏は視察旅行を踏まえ『ドイツの脱原発は、技術問題ではなくエネルギー倫理の問題だと捉

えている。メルケル首相の下に組織された原発問題倫理委員会には電力会社関係者は入っていない。どのようなエネルギーが提供されるべきかは社会が決めるべきだ」と、壮大な理念の問題だ」と、胸にズシリと落ちる、日本が学ぶべき基本精神を提起されました。

山本雅彦氏講演要旨

『私は関電で原子炉の中のウラン燃料をチェックする仕事に就いていた。100万KW級の原発を一日運転すると広島型原発約3発分の放射性物質を生み出す。死の灰に含まれる核種は300種類。敦賀は日本の原発の実験台だ。』「もんじゅ」「ふげん」



に加えて、プルサーマル・老朽化した原子炉などだ。玄海原子炉でのやらせ!が問題になっているが、若狭では「ウソつき動燃」「隠ぺい関電」、公開ヒアリングでの嫌がらせは常態化。問題は原発進出で地元産業構造が変わっていること。金まみれで伝統的産業が潰れたことだ(グラフがそれを示している)。2つの原発銀座の一つ、福島での事故は、二重の人災だ。

東電は全交流電源喪失を『津波による...』というが、津波襲来は15時42分、電源喪失時写真では15時37分となっており地震によるものではないか。若狭の原発震災は近畿に危険が及ぶ。日本原電敷地内表面に、美浜原発の真下に、もんじゅの直下に活断層が発見されている。原発80km圏は安全協定が必要だ。原発再開のためのストレステストは机上の空論だ。原発に変わるエネルギーによる産業や町をどう作るか真剣に模索する時代である。自然エネルギーの物理的潜在量は出力12兆KW。日本の住宅1400万戸の屋根に太陽光パネルを設置するだけでも515億Kwhの電気が生まれる。』

(藤永のぶよ)